

久留米大学を受診した患者さんへ

「術後再建腸管症例に対する内視鏡的逆行性膵胆管造影検査(ERCP)関連手技におけるバルーンアシスト内視鏡の有用性を検討する後方視的研究」の研究に使用する情報について

この研究では、久留米大学を受診し、手術・検査の際に採取し保存されている以下の情報を使用します。

- 1) 期間：平成 14 年 2 月から平成 27 年 12 月
- 2) 受診科：消化器病センター(消化器内科、消化器外科含む)
- 3) 対象疾患名：術後再建腸管を有する ERCP 対象疾患
- 4) 使用する情報：診療情報等

あなたの試料を今後の医学の進歩のために研究に使用させていただきたくお願い申し上げます。研究の内容の詳細は以下のとおりです。

研究内容をよくお読みになり、もし研究にご協力いただけない場合は、お手数ですが下記の連絡先までご連絡ください。

研究ご協力の撤回受付は研究成果の公表前までとなります。

ご了承くださいますよう、お願い申し上げます。

- 1) 研究組織：所属：内科学講座消化器内科部門

研究代表者：助教 倉岡 圭

研究分担者：准教授 岡部 義信

助教 石田 祐介

助教 佐々木 優

助教 安元 真希子

助教 牛島 知之

助教 深堀 理

教授 鶴田 修

教授 鳥村 拓司

外科学講座 助教 川原 隆一

外科学講座 講師 石川 博人

- 2) 研究の意義と目的：術後再建腸管症例に対する ERCP 関連手技は通常内視鏡検査と比較して確立されていない分野であり、今後の手技標準化を図り、より安全な内視鏡検査を提供するために必要な研究と考えています。

- 3) 研究の方法：過去に当院で行ってきた術後再建腸管を有する患者様に対して行ってきた ERCP 関連手技の治療成績をまとめて、通常内視鏡で行った方と、バルーン付き内視鏡で行った方の成績を比較して、バルーン付き内視鏡の有用性を評価します。

- 4) 研究期間：平成 28 年 8 月倫理委員会承認後～平成 30 年 8 月 31 日
- 5) 上記の情報の使用を選定した理由：当院では過去 10 年間で 200 例以上の同検査を行っており、一定以上の情報を得ることができるためです。
- 6) プライバシー保護・人権保護・倫理的配慮について：本研究は、ヘルシンキ宣言に基づく倫理的原則を遵守し、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に従って実施します。なお本研究を実施するにあたって、久留米大学倫理委員会にて承認を得ております。
- 7) 研究成果の発表の方法：学術集会での発表及び論文により学術誌への発表を行う予定としております。
- 8) 利益相反：本研究は特定企業からの資金援助はありませんので利益相反は発生しません。
- 9) 事務局、問い合わせ、連絡先：

研究代表者 倉岡 圭

久留米大学医学部 内科学講座消化器内科部門

〒830-0011 福岡県久留米市旭町 67

電話： 0942-35-3311（内線 3714）

FAX： 0942-34-2623

E-mail: kuraoka_kei@kurume-u.ac.jp